

ドイツ・ライプツヒのフレーベル幼稚園 にみる子どもの主体性の育ち —森の幼稚園における「教示的無関心」について—

七木田 敦 （広島文化学園大学）

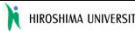




本日のメニュー

- 広島大学附属幼稚園：東広島園舎と三原園舎
- ドイツのフレーベル主義の幼稚園（市街の幼稚園／森の幼稚園）
- 森の幼稚園の起源
- 非教示的な支援
- 幼児教育は何をめざすか





広島大学附属幼稚園 園長就任（2021年）






広島大学附属幼稚園（東広島園舎） 2024年

就学前の2つのアプローチ

就学準備型	生活基盤型
フランス、英語圏諸国など	北欧、中欧など
・学校教育の観点から就学前教育と初等教育を接近させ、児童期における一体化された学習概念を構築する ・子どもに学校へのレディネス・スキルを提供する必要があるとする。	・乳幼児期を人生の広い意味での準備段階ととらえる ・今の発達課題や興味を支えることに重点を置く ・ケア(care)と養育(upbringing)と教育(education)を包含するアプローチをとる。

幼児教育の2つの方向性を同時に体験できる

John Bennett OECD (2004):

就学準備型

生活基盤型

学習概念の構築

発達課題や興味を支えることに重点

学校型アプローチ
アメリカ、イギリス、中国、
フランス..

三原園舎



社会教育型アプローチ
スウェーデン、フィンランド、
ニュージーランド、
ドイツ

東広島園舎

ドイツ ライプツヒの幼稚園



ドイツ・ライプツヒ大学(2019年)

HIROSHIMA UNIVERSITY



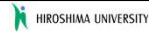
フレーベル「森の幼稚園」と「街の幼稚園」

HIROSHIMA UNIVERSITY



2019年5月～10月:各15回訪問、9-12:00

ドイツのフレーベル主義の幼稚園



- 異年齢保育(縦割り保育)
- 自分で活動を決める(自主性)
- 個人の発達のペースを重視(個別性)



発達

- 発達とは
- Development
- De-envelop
- Envelope



発達: 何かができるようになっていく過程



ドイツ語では、die Entwicklung
(ディー・エントヴィックルンク)



すべての子どもは主体的である



好きな遊びを選ぶ

- 「決定」の支援
 - 自由な遊び
 - 教師の意図、ねらい
- 好きな遊びを遊び込む
- 遊びの配置
 - 「何を遊んだのか」
 - というよりも
 - 「楽しい時間を過ごした」
- 遊びで育つもの
- 自己決定の責任

ドイツの保育の特徴

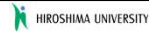
- 異年齢保育(縦割り保育)
- 自分で活動を決める(主体性重視)
- 個人の発達のペースを重視(個別性)



インクルーシブ保育



ドイツ:入園に向けて



- 急ぎすぎない
- 子どものペースに合わせる
- 親子の愛着形成が重要

フレーベル森の幼稚園



日本「森のようちえん全国ネットワーク連盟」

- 【子ども】
 - ・ 自然や生活に関する知識・技術が身につく
 - ・ 多種多様な非認知能力が育まれる
 - ・ 自然と共鳴できるようになる
- 【社会】
 - ・ 育児・教育の新しい視点が得られる
 - ・ 地方と都市部の格差解消につながる
 - ・ 自然との共存の可能性が広がる

なぜシンボルを置くのか？

- 安全なエリアがわかる
- そこへ戻ってくると安全だということがわかる.
- 乳児クラスでは必要
- 活動のはじめ／終わりの起点

空間位置感覚能力(オリエンテーション能力)

- 自分のいる場所を俯瞰で認識する
- ⇒活動の中心を定位する
- メンタルローテーション(心的回転)とは、立体物のイメージを頭のなかで回転させること。
- 空間認識能力が高い人ほど、メンタルローテーションの能力も高い(らしい)。



ライプチヒの森の幼稚園

- (街の幼稚園との比較)
- 2019年5月から10月まで、12回訪問(9時から12時まで)
- 保育の内容は街の幼稚園と変わらない
- 幼児の主体性、異年齢、生活主体、保育者の応答性、
- 森の幼稚園のネガティブ例、剣の導入一パニック状態→止めない保育者
- 森の活動が引き立つのは、通常の園内の活動があるからこそ

ドイツの森の幼稚園

なぜドイツ、スウェーデン、デンマークなのか？

イタリア、フランス、スペインにないのか？



フレーベル 森の幼稚園 の仮説

- 宗教との関係 プロテスタント カトリック
- イギリスはどうか
- 森の幼稚園の起源はデンマークという言説
- →起源の論文
- フレーベルの幼稚園に「森の幼稚園」の起源があるのではないか。

- デンマークの町ソレロド出身のエラ・フラタウは、1950年代に自分と近隣の子供たちと一緒に森に行き、この形態の保育が他の両親に大きな関心と呼んだ後、最初の森の幼稚園を設立しました。関心のある両親が集まり、最初の森林幼稚園を立ち上げるイニシアチブを設立しました。これはスカンジナビア地域に広まりました。1990年代初頭、ドイツ語を話す最初の森林幼稚園がデンマークに建設されました。
- ドイツで最初の森林と自然の幼稚園は、1968年にヴィースバーデンですでに開発されました。設立者のウルスラ・スーベは、トーマス・コミュニティのベルンベック牧師の支援を受けてこの森の幼稚園を組織しました。
- Waldkindergarten運動は、1990年代にのみドイツで支持されました。最初に認められた森林幼稚園は1993年5月3日にフレンスブルクで始まりました。現在、多くの新しいグループが設立されています。今日、ドイツには1500を超える森林幼稚園、オーストリアには23の森林幼稚園、スイスにはさまざまな森林幼稚園があります。
- 純粋な森の幼稚園に加えて、子供たちが動物の世話や世話をする森や動物の幼稚園もあります。

ドイツの文化が反映した 森の幼稚園の特殊性

- ドイツ、森の持つ精神性・神秘性
- →純正なものの持つ尊さ
- 潔癖なものへの偏好性
- バイオ食品、無添加、化学合成物の排除、健康志向
- 2030年までに化石燃料自動車の全廃
- →過剰な自慰行為の子どもを森に連れていく
- →無垢なる森は穢れを取り除く
- →森の潔癖なる精神性の仮託

ドイツの自然観

- 1800年前後のドイツにおいては、「自然」という概念が、自然環境だけではなく、身体、健康、子どもなど多様な対象にわたって適用されている。
- それは、悪しき文明の対極としてポジティブな価値を持ち、かつ人間による制御の対象でもあるという両義的な概念である。
- 風景庭園という人工的につくりだされた自然の空間は、まさにそのような両義的な自然概念を具現化した空間であり、そこに、もう一つの「自然」である身体(健康や子どもの身体を含む)の問題系が交差することによって、この時期の庭園観に身体性のさまざまな局面が浮上してくるということができる。

潔癖の帝国—ナチス

- 精製したパンを禁止、過剰な健康志向、添加物の排除
- ヒトラー—ベジタリアン、非喫煙者、非妻帯
- 純正なアーリア人種の尊重—ユダヤ人の排除
- 森の利用—戦後、ナチスの森が発見される
- 旧東ドイツに森の幼稚園が多い
- 森のイメージとしての統率—軍隊の連想
- 国の管理下でないプログラム

「森のようちえん全国ネットワーク連盟」

- 【子ども】
 - ・ 自然や生活に関する知識・技術が身につく
 - ・ 多種多様な非認知能力が育まれる
 - ・ 自然と共鳴できるようになる
- 【社会】
 - ・ 育児・教育の新しい視点が得られる
 - ・ 地方と都市部の格差解消につながる
 - ・ 自然との共存の可能性が広がる

- ドイツの森の幼稚園は、発達促進的機能というよりも、ドイツの文化的伝統に裏付けられた精神的浄化装置





アフリカの狩猟採集民族

教示の不在

カメルーン狩猟採集社会における
「教えない教育」 園田浩司

狩猟採集社会では教育が行われないという。子どもが自発的に生業活動に参加し、知識と技術を身につける。学習の過程において子どもと周囲はどのように関わり、互いにどのように位置づけるか、そのメカニズムを膨大な調査データに基づき実証的に示した。

教示的無関心とは

- 狩猟採集社会では「自律」が尊重されるといわれている。自律とは、他者の支配を受けずに、自ら行為したり意思決定したりする能力のこと。この自律が規範として存在しているの
で子どもたちは教えられないのだと考えられてきた。
- しかし、「自律」などという言葉は現地のことばにない。
- そこで「「自律」という規範があるから子どもを教えない」を結論とするのではなく、むしろその自律が、協働的達成物としてどのように組織化されるのか（どのような行為と行為の連なりの中で組み立てられているのか）を見ていくことで、これまで言われてきた自律の内実を捉え直す。
- 教示者＝大人と学習者＝子どもは、ともにどのような活動をおこない、そこでどんなやりとりをし、またその活動の光景を子どもはどのように眺め、彼らはなにを経験しているのか、さらには森林という自然環境が、彼らの社会関係にどのように作用しているのか、当事者の実践的な視点から眺める。

ドイツ：森で育つものは何か？

- 慣れていくにつれ、自分で持ち物を準備しだす。準備の良さが育つ
- 年少から年長、2才児など多年齢と一緒に過ごすので、様々な関わりが生まれる
- 本人が小さい時は助けられ、徐々に助ける側に回っていく成長がある
- のびのびとした身体性、自然で鍛えられたしなやかさが備わる、心も。
- 誕生日会が1人ずつあり、友達やスタッフから心のこもったお祝いがある
- しっかりと自分のしたいことを伝えられる自主性が育まれる
- 友達の親とも付き合いの距離が近く、大人に対しての接し方が学べる

森の中でこそ「教示的無関心」が導き出される

- ⇒フレーベルが発見した思想と結びつく

附属幼稚園でさえ

幼児教育の2つの方向性を同時に体験できる

John Bennett OECD (2004):

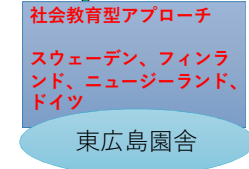
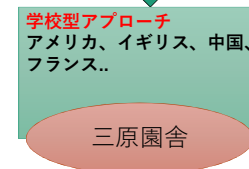
就学準備型

生活基盤型

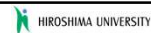


学習概念の構築

発達課題や興味を支えることに重点

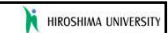


歓待する幼児教育



- ニーチェの言葉
- 「子どもの教育において第一になすべきことは、道徳を教えることではなく、人生が楽しいということ、つまり自己の生が根源において肯定されるべきものであることを、体に覚え込ませてやることなのである。生を肯定できない者にとっては、あらゆる倫理は空しい。この優先順位を逆転させることはできない。」
- 子どものそのまの生を歓待する幼児教育

おわりに



- 「幼稚園」はフレーベルが仕掛けた思想運動
- 思想運動としての「幼稚園」は、時代の変革期にどのように新しい思想として生まれ変わるのか
- ご清聴ありがとうございました。